

## 学習プログラム 事例 2

### 人権教育指導者養成研修会（発展編）

#### 1 事業計画

- (1) 事業名 人権教育指導者養成研修会（発展編）
- (2) 事業の目的 社会教育における人権教育指導者を養成する
- (3) 実施主体 教育委員会
- (4) 参加対象・定員 社会教育関係団体役員，行政職員等 60名程度
- (5) 学習期間・時間（回数） 2日間 計8時間
- (6) 学習場所 公共施設
- (7) 学習目標

人権教育指導者として，効果的な研修のあり方について研修するとともに，内容，方法について，体験的・実践的手法を取り入れるなどの創意工夫を図り，資質の向上を図る。

#### (8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	いま，人権教育は（気づく）	(1) 「広島県人権教育推進プラン」を読む ・ グループ活動を通して深く読む。 (2) 「広島県人権教育推進プラン」がめざすもの ・ 講師の講話から理解を深める。	ファシリテーター  県教委担当者	講話
2	わが町の人権教育（深める）	(1) 実践発表 ・ A市における人権教育の推進状況 (2) 効果的な事業とは ・ A市の実践をもとに，より効果的な事業のあり方を考える。 (3) ロールプレイ・ディベート ・ ディベートを通して，事業を様々な角度から考える (4) 実践交流 ・ 参加者が属する各自治体，団体での人権教育事業について交流する。	A市担当者  ファシリテーター ファシリテーター ファシリテーター	発表  ブレインストーミング KJ法 グループ討議 ロールプレイ・ディベート グループ討議

## 2 学習展開計画

第1回	学習テーマ：いま、人権教育は
学習目標	「広島県人権教育推進プラン」の趣旨について研修するとともに、このプランのめざす社会教育における人権教育の効果的な推進方策について具体的な実践事例を通して考えることができる。

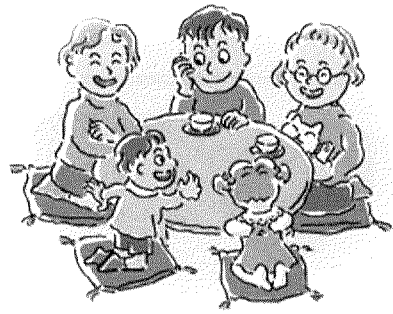
<b>準備物</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A6用紙 1人1枚</li> <li>・ 広島県人権教育推進プラン 1人1部</li> <li>・ 「プラン」に係る記入用紙 1人1枚</li> <li>・ 講話資料 1人1部</li> <li>・ 実践発表資料 1人1部</li> <li>・ 模造紙 各グループ2枚</li> <li>・ 付箋紙 1人10枚程度</li> <li>・ マーカー 各グループ1セット</li> </ul>	<b>会場図</b> (展開部分 各テーブル6名) 
--	-------------------------------

流れ	時間	学 習 活 動
導 入	40分	プログラムの趣旨と活動を行う上での留意点の説明 アイスブレイキングとグループ作り
展 開	80分	活動（アクティビティ）① 参加者による「広島県人権教育推進プラン」の分析 『プラン』でビンゴ
		休憩
	90分	講話 『「広島県人権教育推進プラン」がめざす人権教育』
ふりかえり	30分	まとめ

# いま、人権教育は

ねらい

グループでの活動や、講師のお話を聞いて、「広島県人権教育推進プラン」や、効果的な人権教育のすすめ方について理解を深めます。



- 1 研修の趣旨、活動の留意点の説明
- 2 アイスブレイキング                      名刺交換
- 3 活動（アクティビティ）                  「プラン」でビンゴ
- 4 講話    「広島県人権教育推進プラン」がめざす人権教育
- 5 グループ発表                                  一日の活動を振り返って

## 1 はじめに      **参加型学習、ここに気を付けましょう**

- (1) 今日の研修会の趣旨説明
- (2) 参加型学習で、参加者が留意することを説明
  - ① 参加型では、参加者全員が「参加」することが大切。参加者が主体です。
  - ② 人によって様々な意見があります。どんな意見も否定されません。尊重されます。
  - ③ 学習の中で出された意見などは、この場だけのものとし、外へ持ち出してはいけません。参加者全員に守秘義務があります。

## 2 アイブレイキング 名刺交換

### 活動のねらい

参加者の緊張をやわらげるとともに参加者どうしの親近感を高め、スムーズなコミュニケーションを促します。

### 準備物

A6用紙 1人1枚  
マーカー 1人1本

### 活動の進め方

- 1 はじめに、お互いを良く知るために、名刺交換をすることを伝え、各自自分の名刺をつくります。名刺には、名前の他、趣味、最近うれしかったこと、参加対象によっては所属団体など、指定して書いてもらいます。

裏には、10程度のますを書いておきます。

- 2 はじめの合図で、一斉に動き、出会った人とまず握手をします。続けて名刺を交換し、お互いに自己紹介をし、最後に名刺を返してもらいます。これを、繰り返し、3分間でできるだけ多くの人と名刺交換をしてください

3分後、終わりの合図で、元の席に戻り、裏のますに相手の名前や印象などを書き込みます。

- 3 さて、何人の人と名刺交換ができたでしょうか。多い人はより多くの人と、少ない人はより深くコミュニケーションが図られたことになります。

- 4 名刺の裏に書けた人数の多い順番など、活動の結果をもとに、10人のグループを6個作ります。

書く内容は、この後の活動で活用する項目があれば、それを入れておきます。

### 〔名刺 うら〕


時間は、講座全体の長さや、参加人数によって調整します。長すぎるのも緊張感が無くなるので注意しましょう。

多いことも、少なかったことも、それぞれに意味があるということを押さえておきましょう。

グループの人数は、参加者数や、後の活動の内容によって決めます。

### 3 活動（アクティビティ） 「プラン」でビンゴ

#### 活動のねらい

「広島県人権教育推進プラン」の内容について、ゲームの要素を取り入れながら読み込んでいきます。

#### 準備物

「広島県人権教育推進プラン」 1人1部  
 記入用紙 1人1枚  
 マーカー 1人1本

#### 活動の進め方

- 1 前の活動で作ったグループ毎にテーブルに座り、縦横3ますに区切った記入用紙と「プラン」を配り、これから活動する内容を説明します。ますの数は参加者数が多ければ増やす方がよいでしょう。
- 2 ファシリテーターが「プラン」を読み上げ、参加者は、「明るい地域社会にしていくなために大切だと思う言葉」にマークを付けていきます。  
 読み終わった後で、各自マークを付けた言葉の中から9個を選び出し、記入用紙の各ますの中に書き込みます。
- 3 グループ全員の記入が終わったら、グループ内で1人ずつ順に1語ずつ読み上げます。同じ言葉があった人は、その言葉に○を付けていきます。なお、一度出た言葉は、読みません。○が縦横斜め、いずれか1列が揃った人はビンゴです。ビンゴになった人には立ち上がってもらいます。
- 4 書き込んだ言葉が全て出尽くしたところで、早くビンゴになった人が進行役となって、○が多かった順にランク付けをして、それぞれの言葉について、話し合しましょう。

#### 〔記入用紙〕


学校関係者が対象であれば「人権教育を進める上で大切な言葉」等という指示がよいでしょう。

ビンゴになりやすくするためには、より多くの人が書くであろうと思われる言葉を、うまく配列するのがコツです。

人数が少ない場合は、全体でやってみるのもいいでしょう。

最後まで残った言葉を発表してもらおうと、他の参加者が、様々な視点に触れることができます。

ランクの高かった言葉だけではなく、低かった言葉についても話し合っ、て、「プラン」の解釈を深めます。

## 「プラン」でビンゴ

- 「広島県人権教育推進プラン」を一度読んでみましょう。どんな言葉が大切だと思いましたか。

これはと思うものを9個選んで、下の枠の中にはめ込んでみましょう。

※ 早くビンゴになるように配置を考えましょう。


### 3 講話 「広島県人権教育推進プラン」がめざす人権教育

活動の  
ねらい

「広島県人権教育推進プラン」の内容について、講話を聴くことで、理解を深めます。

準備物

講話資料 1人1部

※ 「人権教育推進プラン」について、策定した経緯や意図について講話をしてもらいます。講師にお願いできるのであれば、前の活動の中で出された参加者の意見などにも触れてもらうと良いでしょう。

また、質疑の時間をとるとより効果的です。

### 4 まとめ グループ発表

活動の  
ねらい

今日1日の活動で、気付いたこと、感想など、グループで話し合い、発表することで、「プラン」についての学習を整理します。

準備物

記入用紙 1人1枚

#### 活動の進め方

- 1 各自で、今日1日の活動の中で気付いたこと、疑問、感想など、自由に記入します。
- 2 グループ内で、1人ずつ記入した内容を話し、意見交換します。ただし、意見をまとめる必要はありません。
- 3 代表者がグループで出された意見等を全体へ発表します。

第2回	学習テーマ：わが町の人権教育
学習目標	社会教育における人権教育の現状、課題及び求められる事業の内容等について、実践事例を通して研修することで、今後の事業展開の方向を考える。

<b>準備物</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践発表資料 1人1部</li> <li>模造紙 各グループ2枚</li> <li>カード 1人10枚程度</li> <li>マーカー 各グループ1セット</li> <li>作戦用紙 各グループ1枚</li> <li>各地域での取組みのまとめ グループの人数分</li> </ul>	<b>会場図</b> (展開部分 各テーブル6名) <div style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ホワイトボード</span>  ○ 講師・ファシリテーター  </div>
---	---

流れ	時間	学習活動
導入	10分	プログラムの趣旨と活動を行う上での留意点の説明
展開	110分	実践発表 「こんな事業やってみました-A市の取り組みから-」  活動（アクティビティ）① グループディスカッション 「みんなが集まる人権教育の事業をつくろう」
		休憩
	90分	活動（アクティビティ）② ロールプレイ・ディベート 「こんな事業あり？なし？」  実践校流 グループディスカッション 「ちょっと聞いてよ、うちの事業」
ふりかえり	30分	グループ発表  まとめ



# わがまちの人権教育

ねらい

人権教育の事業を見直し、より効果的な事業の展開について考えます。



- 1 研修の趣旨、活動の留意点の説明
- 2 実践発表                      こんな事業をやってみましたーA市の取組みからー
- 3 活動（アクティビティ）① より効果的な事業
- 4 活動（アクティビティ）② こんな事業あり？なし？
- 5 実践交流                      ちょっと聞いてよ、うちの事業
- 6 グループ発表                  2日間の活動を振り返って

## 1 はじめに      参加型学習、ここに気を付けましょう

- (1) 今日の研修会の趣旨説明
- (2) 参加型学習で、参加者が留意することを説明
  - ① 参加型では、参加者全員が「参加」することが大切。参加者が主体です。
  - ② 人によって様々な意見があります。どんな意見も否定されません。尊重されます。
  - ③ 学習の中で出された意見などは、この場だけのものとし、外へ持ち出してはいけません。参加者全員に守秘義務があります。

## 2 実践発表 こんな事業をやってみましたーA市の取組みからー

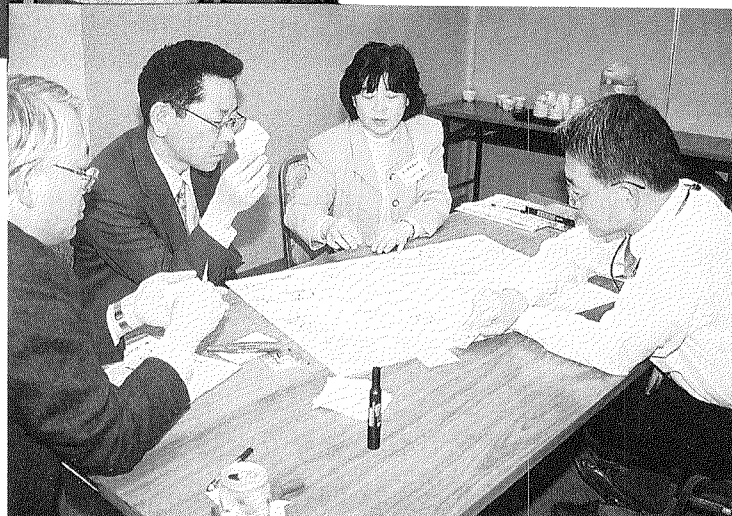
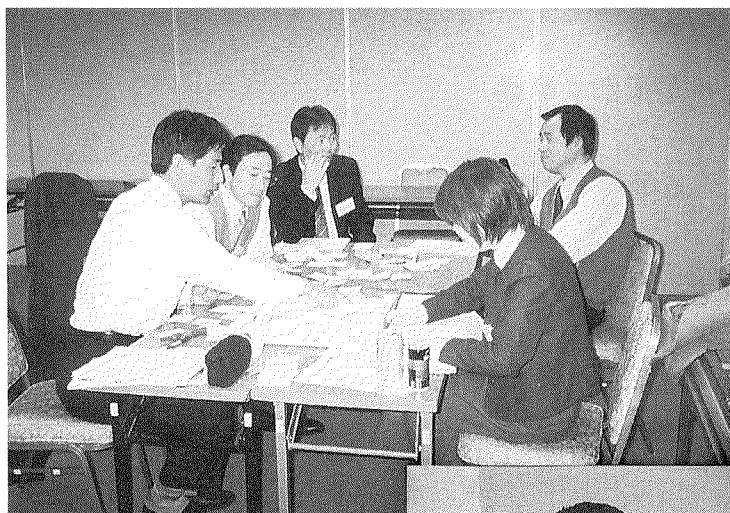
活動の  
ねらい

具体的な事業についての発表を聴き、よりよい事業のあり方について考える基礎資料とします。

準備物

実践発表資料 1人1部

※ 発表内容を元にグループで話し合うことなど、事後の活動について発表者に十分理解してもらう必要があります。



### 3 活動（アクティビティ）① みんなが集まる人権教育の事業をつくろう

#### 活動のねらい

実践発表をもとに、より多くの人に「人権尊重の理念」を正しく理解してもらえる事業を考えていきます。

#### 準備物

模造紙 各グループ 1枚  
カード 1人 20枚  
マーカー 1人 1本

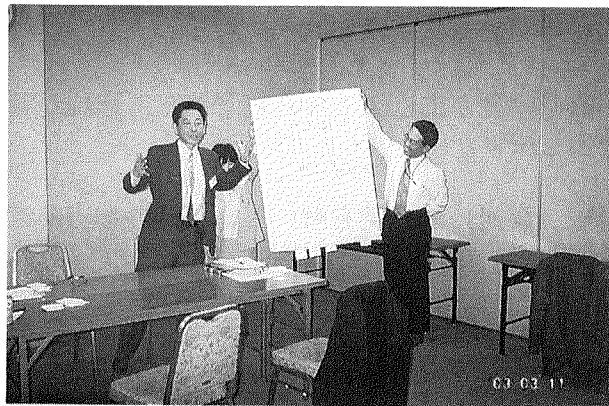
#### 活動の進め方

- 1 実践発表の中で、鍵になると思われる言葉、フレーズをカードに書き出します。（フレンストーミング）
- 2 グループ（第1回のグループを使う）の中で、各自が書いたカードを模造紙に貼ります。この時、カードをグループ分けして見出しを付ける、グループ毎の関連がわかるようにするなど、話し合いながらわかりやすくまとめていきます。（KJ法）
- 3 模造紙を見ながら、グループでより効果的な事業についてまとめます。
- 4 グループで、話し合ったことを中心に全体へ発表します。

あまり深く考えずに、ここでは思い浮かぶことをできるだけ多く集めます。

まずグループ分けをしてみると良いでしょう。関連については、そのグループ間の関連（並列、上下など）を考えます。

必ずしもまとまったものにならなくてよいので、できるだけ様々な意見が出るようにします。



【参考 八尾市人権協会 笠原秀己「じんけん楽習塾」】

## 4 活動（アクティビティ）② こんな事業あり？、なし？

### 活動のねらい

ロールプレイ・ディベートという参加型学習について学ぶとともに、事業を実施する際にどんなことを重視すべきかについて考えます。

### 準備物

作戦記入用紙 各グループ1枚

### 活動の進め方

- 1 「著名人を呼ぶ事業は必要である。」というテーマについて、グループ毎に賛成・反対に分かれます。どのグループが賛成もしくは反対になるかは、その場で決めます。
- 2 各グループで、賛成（もしくは反対）の理由をできるだけ多く考え、作戦用紙に記入します。
- 3 各グループ2名ずつ、前に出て実際にディベートを行う人を決めます。
- 4 各グループから選出された人が、賛成・反対のグループをつくり、向かい合って椅子に座ります。その他の人は、それぞれ自分のグループのメンバー側の応援をします。また、運営者など数名を審判とし、どちらがより説得力があったかを判定します。
- 5 ファシリテーターの司会で、賛成（反対）の論拠や相手への反論などを述べ、討論します。
- 6 一通り意見が出たようなら終了とし、審判が判定を出します。
- 7 賛成（反対）の役割を解いて、自分の本当の考えを出し合います。
- 8 ファシリテーターは、企画立案ではずしてはならないポイントを説明します。

テーマは、賛成、反対のどちらも考えられるもので、誰かが傷つく内容ではないことが必要です。

グループの位置などで、半々になるよう勝手に区切ります。

グループ全体で知恵を出し合うことが必要です。

内容にもよりますが、性別、職業、年代など役割を振り当ててやってみるのもいいでしょう。後ろの参加者は、声や拍手などで盛り上げます。

必ず役割を解いて、本音が出せるようにします。

【参考】（財）人権教育啓発推進センター「ワークショップは技より心」pp.30~31】

### 3 実践交流 **ちょっと聞いてよ、うちの事業**

#### 活動のねらい

各地域・団体等での取組みを交流することで、今後の事業展開を考える上での参考にします。

#### 準備物

各地域での取組みのまとめ グループの人数分

※ 事前に各地域・団体等の取組みについてまとめたものを提出してもらい、グループ全員に配布して話し合ってもらいと交流も深まり、話が進めやすくなります。

### 5 まとめ **グループ発表**

#### 活動のねらい

2日間の活動で、気づいたこと、感想など、グループで話し合い、発表することで、研修のまとめをします。

#### 準備物

記入用紙 1人1枚

#### 活動の進め方

- 1 各自で、2日間の活動で気が付いたこと、疑問、感想など、自由に記入します。
- 2 グループ内で、1人ずつ記入した内容を話し、意見交換をします。ただし、意見をまとめる必要はありません。
- 3 代表者がグループで出された意見等を全体へ発表します。

### 3 事業評価表

(1) 事業評価の視点	従来の事業を分析し、今後の事業展開の方向性について考えることができたか	
(2) 評価方法	目標に基づく評価	
(3) 評価のデータを収集する対象者／技法	対象者：受講者，ファシリテーター，主催者 技法：作品評価法，観察法，インタビュー法，質問紙法(※)	
(4) 評価時期	活動実施時，事業の最後	
(5) 評価の対象領域	学習成果に関するもの	条件整備に関するもの
(6) 評価項目・基準	<p>目標に基づく評価（作品評価法，観察法，インタビュー法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A市の実践の成果・課題の要因等について考えることができたか。</li> <li>・ ディベートの実施に当たり，効果的な立論を考えることができたか。</li> <li>・ 今後の事業展開について，具体的な手がかりを得ることができたか。</li> </ul>	<p>事例研究による評価（質問紙法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容に興味をもてたか。ファシリテーターの説明が理解できたか。</li> <li>・ グループの人数，席の配置は適切であったか。</li> <li>・ 学習時間は適切であったか。</li> </ul>
(7) 留意点・備考	個人及びグループでの発表等，活動の実施時にファシリテーター，運営者が評価する。	事業の最後に，学習者にアンケートを実施し，評価する。

#### (※) 評価のデータを収集する技法

作品評価法…………… 学習者が学習の成果として作成した作品（文章等）を評価の手がかりにする。

観察法…………… 学習活動の場面などで学習者が習得した知識や技能，態度を観察する。

インタビュー法…………… 個人又は集団で，面接等により対象者（学習者，企画者，指導者等）から聞き取りを行う。

質問紙法…………… 学習者の感想や意見，行動や事実について，質問紙による調査を行う。（アンケートなど）